ご挨拶

学長　松本　英文

本学は、昭和二十七年に松翠学園発祥の地である岐阜県郡上郡八幡町に岐阜県濃北短期大学として開学し、その後、移転、名称変更を経て、昭和五十年に現在の滋賀県長浜市田村町に移転し、滋賀文教短期大学となり、今日に至っております。

開学以来、建学の精神に掲げる「知育・徳育・体育の鼎立と調和のとれた人間形成」に基づき、信義・至誠・質実・温和・漸進を学訓として、高い教養と豊かな情操を兼ね備え、幅広い価値観を持った社会に貢献できる有意な人材の育成に努めてまいりました。

私学における「不易流行」の不易なるものは、建学の精神でありますが、この建学の精神と学訓の理念が、学生、教職員の姿や行動、さらには校舎・校庭の隅々まで浸透し、伝統・学風として受け継がれ、毎日の学校生活の中に実現されているのを実感します。「環境は人を育てる」と言いますが、本学の学生の真面目さ・誠実さ・堅実さなどは、この学風の中でこそ培われるものであろうと思います。

古来、「親の背を見て子は育つ」と言われ、「学生は教師の背を見て育つ」などと言われてきましたが、これが全てではないにしても、教育のある側面を言い当てているのは確かであります。学生が教師から道徳的感化を受けるのは、教師の口述や膂力ではなく、額に汗して仕事に打ち込む姿であり、その人の人格を通して得られる信頼感に対してであります。境遇・事情の如何を問わず真剣で誠実な生き方こそが何ものにも代え難い教育者としての態度であり、教育の根本は、人間的魅力を軸として絆を持つことであり、教育は、教師の人格の反映以外の何ものでもなく、教育者自らの率先垂範・不言実行こそがまさしく「背中で教える」ことの本質であると言えましょう。

今後、大幅な人口減少が予想され、第四次産業革命と呼ばれる大きな産業構造の変化の中で、ＡＩ（人工知能）などの技術が様々な業種において活用が進められ、学校教育にも導入されていくことでしょう。機械が感情を持たないのであれば、人間には機械にはできない、人と人との繋がりを重視した人間ならではの教育者としての温かさ、優しさ、厳しさを持って教育を実践していくことが求められるのではないでしょうか。

地方創生に向けての取組が地域の大学の一つの使命とも言われるなか、地域に根ざした知の拠点としての役割を果たすべく、本学の研究活動の成果を内外に発表する場の一つである紀要の刊行も第二十三号の号数を重ねることとなりました。

今日まで、本学に深いご理解と、温かいご支援・ご協力をいただきました多くの皆様に心より感謝申し上げ、発刊の挨拶といたします。